

Q26 運動会における配慮

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

運動会の練習を一生懸命やってきたAさんですが、運動会当日はいつもの練習と雰囲気の違い、朝から落ち着かない様子でした。全校の子どもとその保護者という大勢の人がいることや、スピーカーから流れる大音響のために、本人はとても不安のようです。

自閉症の子どもは、通常の生活や同じリズムの流れで動くことを好みます。練習では頑張れても、いざ本番となると、大集団の中であふれる様々な刺激のために、不安になって混乱する傾向がみられます。

〈このような場合の支援 1〉

小学校1年生の知的障害を伴う自閉症の男児。練習の時以上の周囲のにぎやかさに不安を感じ、運動会の種目に参加するのを嫌がります。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 本番を想定して、練習時から、教師や他の子どもによる具体的な支援方法を考えておく。
- ② 徒競走では、伴走者がついて一緒に走る。その際、励ましの声かけをする。
- ③ ダンスでは、信頼できる友だちの間に演技をする。または信頼できる教師がそばで一緒に踊る。
- ④ 本人が理解できる絵や写真などのプログラムを作って、流れを知らせる。
- ⑤ 入・退場時には予期せぬ事が起こりやすいので、補助指導者がそばについて誘導する。
- ⑥ 職員全体に本人が必要な具体的な支援内容を知らせておく。気付いた教師が支援をする。

〈このような場合の支援 2〉

小学校2年生の高機能自閉症の男児。日頃から大きな音や騒がしいのが苦手で、運動会ではピストルの音を嫌がります。また徒競走で友だちに抜かれると走るのをやめてしまい、歩き出してコースから外れてしまいます。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ⑦ ピストルの音を本人が非常に嫌がる場合は、可能な限り、ピストル以外の音でスタートの合図になるものを使う。
- ⑧ 走る前に、抜かれても最後まで走りぬくことを約束しておく。
- ⑨ 走るのをやめたところから、教師が応援しながら一緒に走る。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子